

を多く包含して其研究が古代文化闡明の上に有つ重要な限り無く大きい時斯る研究への一手引こして有益なものと思はれる。此を機會に斯る調査が各地方に多數出版されん事を希望したい。(菊判一七二頁、大阪府、非賣品)

〔藤〕

●校定出雲國風土記

出雲國風土記は聖武天皇の天平五年に勅造され現存する諸風土記中最も完全なものである。併し乍ら其の傳本に誤謬が多く、從來繙讀研究に遺憾な點が少くなかつたのを、島根縣皇典講究分所に於て大正十年に之が研究会を起し、幾多の郷土史家相集まつて二十數種の異本によつて之を校訂し、前後八年を費して殆んゞ完璧に近い定本を得、宮地直一博士の校閱を経て之を上梓し、別に精巧なる天平時代の出雲國想像圖を附して會員に頒布したが、此度其の殘本を希望者に實費を以て頒つゞのこゝである。古典に趣味を有する人々は一本を求められる必要があらうと思ふ。(和本半紙判本文七三枚、索引十四枚)

松江市、島根縣皇典講究分所發行、特製貳圓、普通本壹、貳〇圓、送料六錢〔松野〕

●東福寺誌

白石 芳留編

今春四月舉行された開山六百五十年忌記念出版として編者の手稿『禪宗編年史』中より特に東福寺、萬壽寺、普門寺、三聖寺等に關する建久四年より享和二年に亙る事項を抄録して編年體に整理したものである。大體大日本史料の體裁に倣ひ、先づ簡潔な綱文を掲げて其重要事項には資料を載せ、然らざるものは典據を記して史實の正確を期してゐる。事項の豊富に資料の博搜は本書を宗門歴史の研究に缺くべからざる資料集とする。又重要名辭はゴシック印刷として搜覽の便を計り、各時代の重要事項を小字に註して背景としての一般情勢を知らしめ以て各事項の有つ意義を理解せしめようとする。附録には綱文を掲げて一覽に便にし、東福其他諸寺の住持歴代、東福寺末寺異同表を加へてゐる。其豊富な材料に周到な編纂は宗門の消長を窺ふべき好古のものとして、開山年